

SHIRAKOBATO

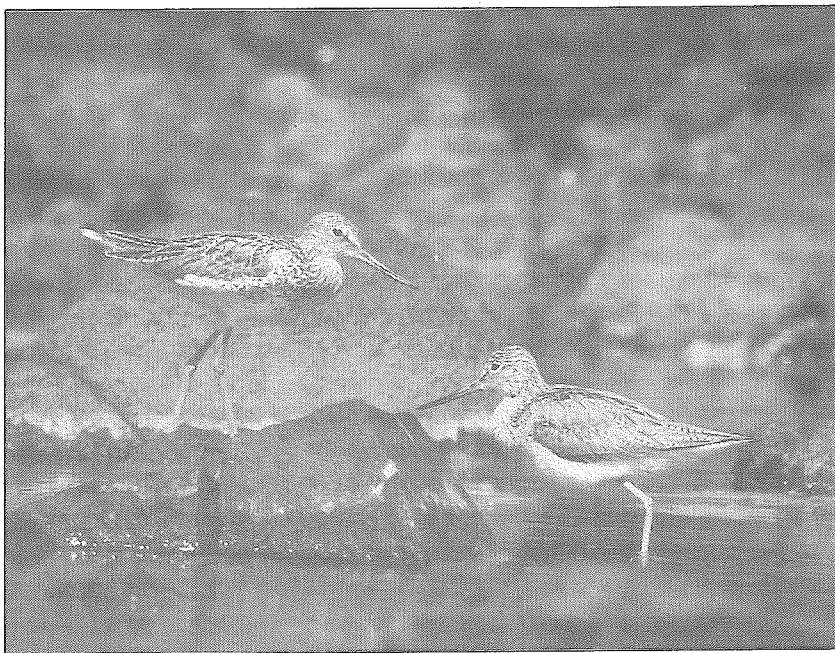
しらこぼと



1991. 9

SOCIETY OF JAPAN · SAITAMA

WILD BIRD



NO. 88

日本野鳥の会 埼玉県支部

ゴルフ場を考える

海老原美夫（浦和市）

ゴルフ場のもたらす環境破壊については、さまざまな議論がある。バードウォッチャーは、特に野鳥への影響を体験的に知っている。その体験としての知識を、数字のうえで検証できないものか、熊谷市大麻生地区の定例探鳥会の記録から考えてみた。

ゴルフ場開設とそれに伴う変化

当支部創立の1984年5月以来、大麻生地区では、毎月第2日曜日に定例探鳥会を開催していた。その地域は、流水面・砂礫地・草地・灌木林・森林と移行する多様な自然環境に恵まれていたが、1986年10月、それまでの探鳥会コースのほぼ中央部に、面積81.8ha、18ホールの県営大麻生ゴルフ場が開設された。

その結果、桑畑などが失われ、ゴルフ場内にかろうじて残されたアカマツ林も、樹木の本数が大幅に減少した。また、例えば1987年4月から翌年3月迄の1年間では、気管支ぜん息様発作などの中毒症状を起こすキャプタン水和剤などの殺菌剤が11種類、マガモの受精卵塗布実験で奇形が現われているダイアジノン乳剤などの殺虫剤が4種類、発ガン性の危険が高いアシュラム液剤などの除草剤が7種類、合計22種類、4.7tもの農薬が散布されるようになった。

それまでの探鳥会コースは桑畑やアカマツ林を通り河原に出ていたのだが、ゴルフ場周辺を回って残された林などを観察し、河原に出るコースに変更せざるをえなかった。

出現鳥リストからの検討方法

探鳥会の出現鳥リストには、出現の有無が記載されているだけで、個体数の記録はない。したがって個体数の変化を検討することはできず、出現率（その鳥種が観察された探鳥会回数の割合）の変化を検討した。

期間については、ゴルフ場開設が1986年10月であることから、10月から9月までを期間単位として、前後各2年間を検討対象期間とした。すなわち、1984年10月から1985年9月までを第Ⅰ期（造成工事前）、1985年10月か

ら1986年9月までを第Ⅱ期（造成工事中）、1986年10月から1987年9月までを第Ⅲ期（開設後1年間）、1987年10月から1988年9月までを第Ⅳ期（開設後2年目）という期間区別である。

対象期間の4年間の定例探鳥会で観察された全鳥種は、13目30科94種であるが、そのうち、オオヨシゴイ・ミソサザイ・オオルリなど43種は、期間内の出現回数が5回以下であるから、出現率の傾向を見るにはデータ不足なので、検討対象から削除した。また、トビ・イワツバメなど4種は上空通過の観察なので、ゴルフ場開設との関連を考える対象からは削除したほうが適切だろうと考えた。

残り47種を、水辺の鳥22種、森林・草原の鳥25種の2グループに分け、出現率を計算した結果が表1である。（その際、渡り鳥などの出現率計算に正確を期するために鳥種ごとに計算対象期間をさだめて計算した。）

結 果

Ⅰ・Ⅱ期とⅢ・Ⅳ期の各平均出現率の差が10%以上あるかどうかと、各期ごとの出現率の変遷をみて、それぞれが増加傾向にあるか減少傾向にあるかを分類したのが、表2である。

水辺の鳥は増加傾向8種、減少傾向8種だから、全体としては特に増減の傾向は見られないと言える。

ところが、森林・草原の鳥では、増加3種に対し、減少11種にも及び、全体として明らかに減少傾向にあるといえる。中でも、アカゲラ・ウグイス・アオジなど、森林への依存度の高い種の減少傾向が目立つ。

結論として、ゴルフ場から最短直線距離で

表1. 各観察鳥種の開設前と開設後における出現率の変化

	鳥 種 名	計算対 象期間	期 間 別 出 現 率				※
			第Ⅰ期	第Ⅱ期	第Ⅲ期	第Ⅳ期	
水 辺 の 鳥	カイツブリ	全	12.5	41.7	80.0	85.7	55.8
	ゴイサギ	全	12.5	41.7	20.0	0.0	-17.1
	ササゴイ	5~9	50.0	20.0	60.0	100.0	45.0
	ダイサギ	全	50.0	41.7	30.0	85.7	12.0
	コサギ	全	75.0	100.0	100.0	100.0	12.5
	マガモ	12~5	25.0	50.0	00.0	66.7	-4.2
	カルガモ	全	87.5	100.0	70.0	71.4	-23.1
	コガモ	10~5	83.3	62.5	50.0	40.0	-27.9
	オナガガモ	11~4	40.0	50.0	50.0	33.3	-3.4
	バン	5~10	33.3	33.3	50.0	25.0	4.2
	コチドリ	5~8	0.0	0.0	100.0	66.7	83.4
	イカルチドリ	全	75.0	83.3	40.0	14.3	-52.0
	クサシギ	全	0.0	16.7	30.0	28.6	21.0
	イソシギ	全	75.0	91.7	100.0	85.7	9.5
	タシギ	10~5	50.0	37.5	16.7	20.0	-25.4
	ユリカモメ	11~4	80.0	33.3	25.0	33.3	-27.5
	コアジサシ	4~8	0.0	60.0	100.0	66.7	53.4
	カワセミ	全	87.5	66.7	60.0	71.4	-11.4
	キセキレイ	全	50.0	25.0	50.0	85.7	30.4
	ハクセキレイ	全	62.5	50.0	60.0	71.4	9.5
森 林 ・ 草 原 の 鳥	セグロセキレイ	全	100.0	100.0	100.0	100.0	0.0
	タヒバリ	1~6	33.3	66.7	75.0	33.3	4.2
	コジュケイ	全	62.5	50.0	40.0	71.4	-0.6
	キジ	全	25.0	50.0	20.0	42.9	-6.1
	キジバト	全	100.0	100.0	100.0	100.0	0.0
	アカゲラ	10~1	50.0	100.0	66.7	0.0	-41.7
	ヒバリ	全	100.0	100.0	90.0	100.0	-5.0
	ヒヨドリ	全	100.0	100.0	100.0	85.7	-7.2
	モズ	全	100.0	83.3	90.0	71.4	-11.0
	ジョウビタキ	11~4	80.0	66.7	100.0	100.0	26.7
	ツグミ	11~5	100.0	100.0	80.0	75.0	-22.5
	ウグイス	11~7	83.3	55.6	57.1	40.0	-20.9
	オオヨシキリ	5~9	0.0	80.0	60.0	66.7	23.4
	セッカ	4~11	80.0	75.0	62.5	60.0	-16.3
	シジュウカラ	全	75.0	75.0	50.0	71.4	-14.3
	メジロ	全	62.5	50.0	20.0	42.9	-24.8
	ホオジロ	全	100.0	100.0	100.0	100.0	0.0
	カシラダカ	10~4	83.3	85.7	100.0	75.0	3.0
	アオジ	11~5	60.0	100.0	60.0	50.0	-25.0
	カワラヒワ	全	100.0	100.0	100.0	100.0	0.0
森 林 ・ 草 原 の 鳥	シメ	10~4	66.7	57.1	100.0	75.0	25.6
	スズメ	全	100.0	100.0	100.0	100.0	0.0
	ムクドリ	全	100.0	100.0	100.0	100.0	0.0
	カケス	10~4	66.7	71.4	60.0	25.0	-26.6
	オナガ	全	75.0	75.0	60.0	57.1	-16.5
	ハシボソガラス	全	100.0	100.0	100.0	100.0	0.0
	ハシブトガラス	全	100.0	100.0	90.0	71.4	-19.3

※ = (Ⅲ・Ⅳ期の平均出現率) - (Ⅰ・Ⅱ期の平均出現率)

150m以上はなれている水辺に生息する鳥は、(まだその期間では)全体として増加も減少もどちらの傾向も見られないが、森林・草原の鳥では、森林への依存度が高い種を中心に、全体として明らかに減少傾向にある。

もうゴルフ場はいらない!!

以上の検討のくわしいことは、日本野鳥の会研究報告誌『Strix (ストリクス)』Vol.

表2. 傾向による分類

	増加傾向	減少傾向
水 辺 の 鳥	カイツブリ ササゴイ ダイサギ コサギ コチドリ クサシギ コアジサシ キセキレイ (8種)	ゴイサギ カルガモ コガモ オナガガモ イカルチドリ タシギ ユリカモメ カワセミ (8種)
森 林 ・ 草 原 の 鳥	ジョウビタキ オオヨシキリ シメ (3種)	アカゲラ モズ ツグミ ウグイス セッカ シジュウカラ メジロ アオジ カケス オナガ ハシブトガラス (11種)

9に掲載されているが、私自身、検討を初めた時には、こんなに明らかな結果が出るとは思ってもいなかった。体験的・感覚的な面だけではなく、数字のうえでも、ゴルフ場が出来ると野鳥が減り、環境が破壊されることが明らかになった。

ゴルフ場は自然環境に対して、はっきりとマイナスにはたっている。

埼玉県は一応新規のゴルフ場は凍結の方針を打ち出しているが、未設置町村への新設とリゾート法による開発は例外としていて、畑知事は、県内では最終的には100ヵ所にもなる見通しを発表している。

既にあるものを全部つぶせとまで過激なことは言えないが、もうこれ以上ひとつも作らないでほしい。

見たところ緑色で、実は環境を破壊しているゴルフ場ではなく、一見したところでは経済的価値が低く見える里山や草原・葦原などの本当の「緑」こそ、未来にむけて大切に保護されなければならない。

地鳴きコーナー

米国探鳥の記

三田長久 (狭山市)

6月中旬に、米国の東西海岸を訪れる機会を得ました。

東西海岸で共通に多く見られたのは、町中ではドバト、ホシムクドリ、イエスズメ。少し樹木があるところではアカハラに似たAmerican Robinとマシコの仲間のHouse Finch、トレモロが上手でスズメに似たSong Sparrow。水辺ではウの仲間Double-Crested Cormorantとマガン。ツバメはTree Swallowが共通して見られました。

[東海岸 ポストン]

黄色いAmerican Goldfinch、赤いHouse Finch、オレンジ色のNorthern Oriole、青いBlue Jay、肩だけ赤くて他は真っ黒なRed-Winged Blackbirdなど、色とりどりの鳥が町中の公園で飛んでいました。Song SparrowやAmerican Robin、Northern Mockingbird、Gray Catbirdなどがいい声で鳴いていました。

少し南に行った大きな池では、カナダガンが子育て。港では、Ring-Billed Gullがいました。

[東海岸 グレートメー野生生物保護区]

内務省の管轄で、日本では野鳥の会がほぼそと作っているサンクチュアリの規模を大きくしたようなものです。この様な保護区が米国内に渡りのルート沿いに450以上あり、総面積36万km²に及ぶそうです。

大きな池には多数のカナダガンがおり、背



中を青や緑にきらめかせてTree Swallowが飛び回っていました。ガマの草むらではミソザイの仲間Marsh Wrenがトレモロを響かせ、周囲の林ではYellow Warbler、Common Yellow Throatなどの黄色い鳥がにぎやかにさえずっています。林の中ではヒガラに似たBlack-Capped Chickadeeや冠羽があるカラ類Tufted Titmouseが元気に枝移り。

コンコードの町ではハリオアマツバメの仲間Chimney Swiftがたくさん飛んでいました。

[東海岸 ワイオミングヒル]

ポストンから北へ列車で15分ほど。水源池のまわりに広い保存林があるところです。

黒い頭で脇が茶色のRufous-Sided Towheeがあちこちでさえずっており、真っ赤なNorthern Cardinalも。林の中の小さな池は一面に水蓮が咲いており、ヤマセミに似たBelted Kingfisherが。

丘の頂上から見渡すと、ワシタカ類Red-Tailed Hawkが悠然と輪を回しており、Red-Shouldered Hawkも見られました。

林の中ではキツツキ類Common FlickerやDowny Woodpeckerが木をつついていました。Northern Orioleの子育てや、キレンジャクに似たCedar Waxwingも見られました。

[西海岸 サンフランシスコ]

西海岸に来ると、東海岸で見られたRed-Winged BlackbirdとCommon Grackleが姿を消し、これに似たBrewer's Blackbirdがたくさんいました。

金門橋公園と金門橋周辺の海岸沿いには、腰が白くくびれた感じに見えるViolet Green Swallowが飛んでおり、芝生の上にはフタオビチドリが。海辺で飛んでいるのはCalifornia GullやWestern Gull。林の中ではエナガかと思ったBushtitが動きまわり、ハチドリ的一种Anna's Hummingbirdも飛んでいました。大きな木の幹をかけまわっているのは、ゴジュウカラを小さくしたPygmy Nuthatchや、小型キバシリBrown Creeper。方言の研究で有名なミヤマシトドがあちこちでさえずっています。

※※※ ねぐら情報をお知らせください ※※※

本部研究センターでは、集団繁殖地や集団ねぐらの調査を行っています。環境庁の自然環境保護基礎調査の一環として実施しているもので、現在関東地方などで現地調査中ですが、まだ現段階で分かっている情報は限られたものです。

対象は、サギ類・チョウゲンボウ・コアシサシ・アマツバメ類・ツバメ類です。もし埼玉県周辺に、これらの鳥の集団繁殖地や集団ねぐらがあれば、ぜひお知らせ下さい。

数十羽ほどの小さなねぐらや、誰でも知っているような場所の情報でも結構です。

〒150 東京都渋谷区東2-24-5 日本野鳥の会研究センター ☎03-3486-4869 担当・藤田

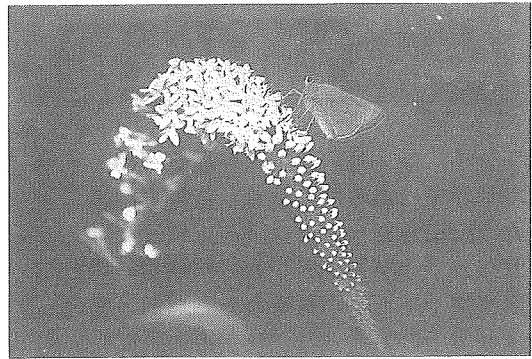
[西海岸 エンジェルアイランド]

サンフランシスコから船で40分くらいのところにある湾内の島です。

水面ぎりぎりにBrown Pelican が悠然と飛び、山頂ではコンドルの仲間Turkey Vulture がチュウヒの形で輪をかいていました。

海岸ではCliff Swallow が巣を作っており、オニアジサシも飛んでいました。

林の中ではジェイジェイとScrub Jay が騒いでおり、黒覆面のDark-Eyed JuncoやRufouse Sided Towhee、House Finch がさえずっていました。



オカトラノオ (増尾 隆)

さえずり コーナー

採集必要なし

佐藤方博 (所沢市)

『野鳥』誌7月号コラムに対する8月号『さえずりコーナー』の論者の考えに賛成できないので、採集否定の立場から私の意見を述べる。

まず論者は、真の虫好きは節度ある採集をするというのが、採ってどうするのか。標本にする。なぜ? 収集・鑑賞のために。種の絶えぬように配慮して採るそうだが、命あるものを、切手集めのような感覚で扱うことが問題なのである。

だいたい、コレクションの充実に血眼の大人や、虫欲しさでいっぱいの子供が、この昆虫は数が少ないからと我慢するだろうか。稀少種ほど夢中になる世界である。採集で激減したチョウを守るために監視をする例がよく報道されるが、隙を見て密猟するほど見境がない。いくら復元力の大きな種類といえど、趣味で標本を作る人を真の虫好きとは呼べない。

また、論者は鳥好きを引き合いに出しているが、コラム氏はマナーの欠落したバーダーを弁護するものではないし、まして装飾用の剥製などは、標本同様に否定するだろう。そして「自然と触れ合う」ということは、自然の構成員を私物化することではなく、自然の中で、その営みに触れることではないだろうか。

次に、コラム氏は標本のための採集を悪としているが、論者の言う「観察した後ではなす」ことまでは否定していない。自然保護教育、環境教育では、昆虫をただ見るだけではなく、しばしば手に取って観察する。

では、飼育目的の採集はどうか。飼育でも、熱心に観察したり大事に世話をして、最後に逃がすのなら、納得できる。もちろん、数の少ない種や飼育困難な種は避けるなど、対象を選ぶ必要はあるが。

問題は、採ったものを全部持ち帰ったり、持ち帰っても最初から飼う気がない場合である。小さな容器に数十匹のクワガタを押し込んで得意顔の少年や、無造作に置かれた虫かごの中で干からびているセミを見る度に、目的のない採集・飼育の有害性を痛感する。

前者の責任ある飼育では、死に際して命の尊さを知ることであろう。だが残念なことに大部分を占める後者の場合、採った後はどうでもよく、死も深く考えずに、また次の獲物を採ることを繰り返すのだから、考え方によっては、標本集めよりひどい。多くの人が生き物を採って飼ったことがあるのに、虫などをおもしろ半分に殺す人が沢山いるのは、ほとんどの採集・飼育が、ただ欲しいと言う欲求によって行われ、何の教育的効果も持たなかったことを如実に物語っている。

採集や飼育では、生物を知ることではできても、論者の言う「自然の理解」は得られない。そこには生態系という視点が欠けている。この論の特におかしな点は、「図鑑や映像で知識は得られるが、それは理解とはならない。理解には経験が必要だ」としながら、その経験を殺生に求めていることである。なぜコラム氏の言う「自然観察会」に行き着かないのか。「生き物を人間のエゴで殺すことがないようにするのが教育の目的」というが、その達成のための「虫を捕らえて殺す経験」がエゴでなくて何だろうか。

殺して命の尊さを知る、採って理解が深まるという根強い考えがある。だが、観察会などさまざまな場で自然保護教育が行われるようになった今日、もはや、採ったり殺したりせずとも、正しく自然や命を理解させることは十分できる。

トンボやセミ採りの遊びまでは否定しないが、持ち帰ってみじめな余生を送らせたり、標本を作って楽しむことは、もうやめるべきである。



ヨシゴイ ◇7月31日、浦和市秋ヶ瀬、2巣で抱卵中。他の巣はほとんどヒナが巣立った（上田恵介）。

ササゴイ ◇7月7日、坂戸市浅羽野地区の高麗川で1羽。小魚をねらう（館 明良）。

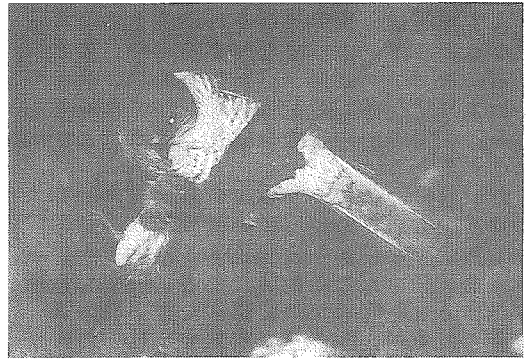
ダイサギ ◇7月6日、狭山市の入間川、本富士見橋下流で1羽。くちばしの根本半分が黄色く、先半分が黒い。鳥の世界ではもう冬支度が始まっている（三田長久）。

ハイタカ ◇7月1日午前8時頃、朝霞市の黒目川沿いの斜面林の枯れ木の頂上で1羽。キジバトかと思って双眼鏡で見たら、ハイタカ♂だった。やがて、オナガにモビングされて飛び去った。今の時期、平地にいるとは思わなかった（山上善郎）。

ツミ（繁殖） ◇浦和市大間木の農家裏の林、杉の木の高さ15mくらいの位置に営巣。♂は若く、♀は成熟した個体。4月30日餌渡し交尾。5月9日頃抱卵開始。6月8日頃孵化（後日ヒナ4羽と判明）。6月22日ヒナ2羽がアオダイショウに飲まれ、近所の人達が協力してヘビを退治。6月29日、残った2羽のヒナが巣のまわりの枝に出て、盛んに羽ばたき。7月1日ヒナ1羽が巣立ちして林の中を飛び回る。もう1羽は巣の真下あたりで死亡。死亡した1羽は初列風切がまったく伸びておらず、そのために巣立ちできずに餓死したのではないかとの考えがあるが、初列風切が伸びなかった原因

は分からない。以上、福井恒人・並木鳥獣保護員らの観察結果なども含めて報告（海老原美夫）。◇7月6日、浦和市道祖土地区、屋敷林中の高さ約20mの広葉樹に営巣繁殖行動中であることを確認。♂♀ともに成熟した個体。8月10日頃巣立ち。ヒナ数不明（海老原美夫）。◇7月初め頃、浦和市中尾の屋敷林の杉の木に営巣しているのを発見。♀は若く、♂はかなり小型。7月15日頃、ヒナ3羽くらい巣立ち（草間和子）。◇浦和市大谷口地区の雑木林で繁殖。7月中頃巣立ち。同時に4羽以上が林の中を飛び回っていて、巣の中にまだ1羽いたので、少なくとも3羽以上巣立ったものと思われる（徳世秀文）。

（編集部註：以上4ヵ所のツミの巣のそれぞれの距離は、約1km位です）



餌を運んできた♂（大間木）

トウネン ◇7月28日、戸田市道満貯水池の干潟で1羽（高橋達也）。

オジロトウネン ◇7月25日、戸田市道満貯水池の干潟で1羽。28日にも観察された（高橋達也）。

アオアシシギ ◇7月25日、戸田市道満貯水池の干潟で3羽（高橋達也）。

タカブシギ ◇7月25日、戸田市道満貯水池の干潟で3羽（高橋達也）。

キアシシギ ◇7月28日、戸田市道満貯水池の干潟で3羽（高橋達也）。

オオジシギ ◇7月26日、浦和市秋ヶ瀬で1羽（上田恵介）。

シラコバト ◇7月4日午前5時30分頃、川越市菅間の釘無橋手前の入間川自転車道付近で4羽（松尾英美）。





(唐沢清美)

カッコウ ◇7月14日、浦和市大崎で鳴き声を聞く(渡邊光行)。

ツツドリ ◇5月4日、毛呂山町の自宅で鳴き声を聞く(前田真由美)。

ホトトギス ◇5月4日、毛呂山町の自宅で鳴き声を聞く(前田真由美)。◇7月6日、狭山市沢久保の雑木林で盛んに鳴く。ここでは、普段はカッコウしかおらず、ホトトギスは初めて(三田長久)。

アオバズク ◇6月1日、毛呂山町の自宅で鳴き声を聞く(前田真由美)。

ヨタカ ◇5月26日、狭山市沢久保の雑木林で鳴き声を聞く(三田長久)。◇6月17日午後9時30分頃、毛呂山町の自宅上空を鳴きながら通過(前田真由美)。

カワセミ ◇6月15日、坂戸市浅羽野地区の高麗川で2羽で編隊飛行。7月14日、坂戸市中富地区で2羽、ダイビングを繰り返して、小魚を捕らえていた(館 明良)。

ヒヨドリ ◇朝霞市溝沼付近に「ジュウイチ」と鳴くヒヨドリが1羽いる。今は一声ずつになったが、1ヵ月くらい前までは連

続して鳴くので、ビックリした。あの鳴き声をどうして覚えたのだろう(山上善郎)。
モズ(高鳴き) ◇7月31日、浦和市秋ヶ瀬のヨシ原で♂1羽。2～3秒続いただけですが(上田恵介)。

コシキリ ◇7月14日、浦和市上野田のさぎ山記念公園の用水東縁側で多数。2～3羽が常に確認できた(渡邊光行)。

サンコウチョウ ◇6月16日午後5時頃、毛呂山町で1羽。さかんにさえぎっていた(前田真由美)。

野鳥情報をお寄せください

稀少種に限らず、その場所では珍しいものやその時期には珍しいもの、あるいは珍しくはないけれども季節感にあふれた情報、ちょっと変わった行動など、いろいろな情報をお待ちしています。

はっきり言って、常連さんより新人びいきです。新しく情報を寄せてくださった方を優先して掲載します。

明らかに間違いと思われる情報は別にして、原則としてお寄せいただいた情報をそのまま掲載します。ただし、ご本人が確信がない場合や、珍しい種類でその裏付けがはっきりしない場合などは「？」マークをつけさせてもらう場合もあります。

珍しい種類の場合は、できるだけ写真や詳しい観察結果なども一緒にお送りください。

事務局はボランティアで、別の仕事の合間に支部の電話応対などをしております。情報は、はがき・手紙・ファックスなどでお寄せいただくと助かります。

表紙の写真

1990 ネイチャーフォトコンテスト入選作

アオアシギ(シギ科)

シギは識別が難しいからあまり好きではないという人もいるようです。かと思うと、シギ・チドリの識別に命をかけているのではないと思われるような人も結構います。

私は識別にそれほど熱心ではありませんが、シギ・チドリは嫌いではありませんので、シ

ーズンになると必ずカメラをかついで出かけます。

アオアシギは、足もくちばしも長く、いかにもシギらしいシギです。そのスマートさが好きな人も多いことでしょう。

(登坂久雄・八王子市)

行事あんない



秋のシギ・チドリ観察会

冬羽のシギ・チドリ、納得ゆくまで眺めて下さい。みんな似たりよったりのシギ類ですが、見ていると、それぞれの特徴が、魅力が、だんだんわかってきます。2日連続の干渴の探鳥会。元気な方は、ぜひ2日とも、どうぞ。

*多摩川河口

期日：9月7日(土)

集合：午前9時45分 京浜急行大師線小島新田駅前

交通：京浜急行線品川9:04 発特急→京急川崎9:19、大師線乗り換え9:29 発→小島新田9:39 着

担当：小林(み)、松井、草間

*谷津干潟

期日：9月8日(日)

集合：午前9時 JR京葉線南船橋駅前

担当：杉本、登坂

熊谷市・大麻生定例探鳥会

期日：9月8日(日)

集合：午前9時20分 秩父鉄道大麻生駅前

担当：諏訪(隆)、岡安、林、逸見、関口、諏訪(夕)、菱沼

見どころ：青空に注目！ 南へ向かうサシバをはじめ、思いがけないワシタカの仲間に出会えるこの季節。残暑に負けずに、まぶしい空を見渡してみよう。

浦和市・三室地区定例探鳥会

期日：9月15日(日)

野鳥や自然の好きな方、どなたでも歓迎。

探鳥会への参加は、特別な場合を除いて予約申込みの必要はありません。受付は探鳥会当日です。参加費は一般100円、会員及び中学生以下50円。持ち物は、筆記用具、雨具、昼食、ゴミ袋、もしあれば双眼鏡など。小雨決行です。解散時刻は、特に記載のない場合、午後1時ごろになります。

◇フィールドマナー、いつも忘れないで◇

- ・鳥に近づきすぎたり、植物を採ったり荒らしたりしないように。細く長いおつきあいを。
- ・ゴミは、家まで持ち帰りましょう。

集合：午前8時15分 京浜東北線北浦和駅東口(集合後、バスで現地へ)または、午前9時 浦和市立郷土博物館前

後援：浦和市立郷土博物館

担当：楠見、福井、渡辺、手塚、伊藤、笠原、田口

見どころ：移りゆく季節を告げる鳥は、渡り鳥とは限りません。群れを作り始めたムクドリ、モズの高鳴きなど、おなじみの鳥の行動にも秋の気配が・・・

秋のシギ・チドリ類県内一斉調査

期日：9月16日(月・代休)

当支部では、春と秋の2回、独自にシギ・チドリ類の県内一斉調査を行なっています。下記の地点の調査に、ご協力お願い致します。

*秋ヶ瀬(浦和市・大宮市)

集合：午前9時30分、大久保浄水場の北西角 近くの土手の上、水門のあたり。

担当：石井、登坂

解散は昼頃の予定。雨天決行。参加費無料。

寄居町・鐘撞堂山探鳥会

期日：9月22日(日)

集合：午前9時 寄居駅北口

交通：東武東上線川越7:48→小川町乗継ぎ→寄居8:49/秩父鉄道熊谷8:25に乗車。

担当：林、町田、諏訪(隆)

見どころ：渡り鳥に会えるハイキング。まずは軽い山歩きで、足の運動。次に、空を見上げてサシバを探し、左右を見回してエゾビタキを探し、首と目の運動。

運動不足のあなたに、おすすめしたい
秋の特選コース。

浦和市・秋ヶ瀬探鳥会

期日：9月23日（月・祝）

集合：午前9時 浦和駅西口バスロータリー

担当：福井、海老原、草間、小林（み）

見どころ：農耕地で見るシギ・チドリ。刈入れ後の田んぼにタシギやムナグロが降りています。よく探してみましょう。周辺の林では、ツツドリやヒタキの仲間にも会えるかもしれません。

『しらこぼと』袋づめの会

とき：9月28日（土）午後1時～2時ごろ

会場：支部事務局

野鳥写真クラブ定例会

とき：9月28日（土）午後2時ごろ～5時

会場：『しらこぼと』袋づめの会と同じ

本庄市・阪東大橋探鳥会

期日：9月29日（日）

集合：午前9時 JR高崎線本庄駅北口

（集合後、現地までバス利用）

担当：町田、北川、林、小淵

見どころ：秋を歌うアオアシシギ。優しく、寂しげなその声に心がふるえます。秋の河原は、ちょっとセンチメンタル気分。いつも隣りにいてほしい誰かを誘って、お越し下さい。

川口市・差間探鳥会

期日：9月29日（日）

集合：午前9時 JR武蔵野線東浦和駅前

交通：武蔵野線北朝霞8：43、武蔵浦和8：50、南浦和8：53、東浦和8：57

担当：手塚、伊藤、笠原、田口

見どころ：秋の野の風情と旅鳥たち。長旅の途中のツツドリ、ノビタキ、アマツバメ。差間の里でひと休み。一面のススキやヒガンバナは、彼らの瞳にどんなふう映っているのでしょうか。

タカの渡り調査

期日：9月29日（日）

恒例の調査です。一日、空を眺めているだけで、貴重なデータが得られます。初めての方も、お気軽にどうぞ。解散は昼過ぎの予定。雨天決行、参加費無料。

◆調査地点1 鐘撞堂山（寄居町）

集合：午前7時30分 寄居駅北口（直接行かれる方は、鐘撞堂山山頂）

担当：小淵

◆調査地点2 物見山（東松山市、鳩山町）

集合：午前7時30分東武東上線高坂駅西口（直接行かれる方は物見山展望台）

担当：榎本

◆調査地点3 高指山（日高町）

集合：午前7時 高指山NTT マイクロウェーブ中継局前

交通：西武池袋線高麗駅より高麗本郷、駒高を経て徒歩60分

担当：小荷田

◆調査地点4 天覧山（飯能市）

集合：午前9時から正午まで、ご都合のよい時間に山頂展望台へお越し下さい。

交通：西武池袋線飯能駅から徒歩30分

担当：海老原

長野県・戸隠飯綱高原探鳥会（要予約）

期日：10月26日（土）早朝～27日（日）

集合：26日午前5時20分 JR長野駅改札口前

交通：26日午前0時26分大宮発急行「妙高」に乗車。または長野駅周辺で前泊を。

費用：10,000円の予定（泊3食・バス代・参加費・保険料等）他に往復の交通費。

定員：40名（先着順、県支部会員優先）

申し込み：往復葉書に住所、氏名、電話番号、性別を明記の上、北川慎一（きんいち）

担当：北川 草間

見どころ：渡り鳥、赤い鳥。のんびりと紅葉を愛で、落葉のじゅうたんを踏み、晩秋の山の自然に浸りましょう。宿では、蕎麦・手打ちそばと地酒が、あなたを待っています。

行事報告

5月3日(金、休) 茨城県 菅生沼

人 40人 天気 晴 鳥 カイツブリ ゴイサギ アマサギ ダイサギ チュウサギ コサギ アオサギ カルガモ コガモ コジュケイ キジ バン オオバン コチドリ ムナグロ ツルシギ チュウシャクシギ タシギ シラコバト キジバト フクロウ コゲラ ヒバリ ツバメ ハクセキレイ ヒヨドリ モズ ツグミ ウグイス オオヨシキリ シジュウカラ ホオジロ カシラダカ カワラヒワ スズメ ムクドリ オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス (39種) 田植の始まったあぜ道を歩きながら、ムナグロやアマサギを見る。途中、キジやチュウシャクシギにも会えた。沼では、真黒な夏羽のツルシギ30羽位を十分に観察することができた。最後には、思いがけなく、全員フクロウを見ることができ大感激。いつ来ても菅生沼はすばらしい所だ。

(中島康夫)

5月11日(土) 栃木県 碓氷川と千本松牧場

人 16人 天気 晴 鳥 カルガモ トビ ノスリ チョウゲンボウ キジ コチドリ イソシギ オオジシギ キジバト ヤマセミ カワセミ ヒバリ ツバメ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ ウグイス センダイムシクイ シジュウカラ ホオジロ カワラヒワ スズメ ムクドリ オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス (28種) 碓氷川では、子育てに忙しいチョウゲンボウ夫婦の活動ぶりをじっくりと観察することができた。ヒナは未だ小さかったが姿を見ることができた。他には、カワセミとヤマセミも見られた。二つ目の探鳥地の千本松は、大分開発が進んで来て、鳥が少なかった。でもオオジシギを見ることができた。

(中島康夫)

6月1日(土) 『しらこぼと』袋づめの会

がんばった人たち 岩波勇一、海老原教子、海老原美夫、大沢和子、神場真文、佐久間博文、鈴木秀男、鈴木啓紀、墨江光子、登坂久雄、中村治、藤野富代 (12人)

6月1日(土) 写真クラブ定例会

参加者 14人

作品発表 ビデオ1人、スライド3人



ウソ (登坂久雄・八王子市)

6月9日(日) 熊谷市 大麻生

人 46人 天気 晴 鳥 カイツブリ ゴイサギ ササゴイ ダイサギ コサギ カルガモ トビ コジュケイ キジ バン コチドリ イカルチドリ コアジサシ キジバト カッコウ コゲラ ヒバリ ツバメ イワツバメ セグロセキレイ ヒヨドリ アカハラ ウグイス オオヨシキリ セッカ シジュウカラ ホオジロ カワラヒワ スズメ ムクドリ オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス (33種) 梅雨入り直前の日差しの強い日だった。この日のハイライトは、なんといっても明戸堰で見たバンの親子連れだ。バンのヒナのぬいぐるみのような姿は、参加者みんなを楽しませてくれたに違いない。その他、コースの途中で見かけたコジュケイ、夏の日

差しの中を飛ぶコアジサシなど初夏の大麻生のレギュラーがそろっていた。(諏訪隆久)

6月16日(日) 浦和市 三室地区

人 16人 天気 曇 鳥 コサギ ホシハジロ カルガモ コジュケイ キジ コチドリ キアシシギ シラコバト キジバト カッコウ ヒバリ ツバメ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ オオヨシキリ セッカ シジュウカラ ホオジロ カワラヒワ スズメ ムクドリ オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス(26種) 朝から大粒の雨が降っていた。梅雨の豪雨というものでした。誰も来ないと思っても、三室の探鳥会は、博物館に集まるのでした。9時にリーダー以外の運の強い参加者4人が集まり、雨は上がり、シラコバトはとてもきれいで、カッコウは電線に止まって、カルガモはたくさん親子連れ、良い探鳥会でした。(ホシハジロは羽根が傷ついて、残ったもののようでした。)

(楠見邦博)

6月16日(日) 大滝村 三峰神社

人 18人 天気 曇後晴 鳥 オオタカ ノスリ クマタカ キジバト アオバト ツツドリ ホトトギス ハリオアマツバメ コゲラ キセキレイ ヒヨドリ ミソサザイ コマドリ コルリ ウグイス キビタキ コガラ ヒガラ ヤマガラ シジュウカラ メジロ ホオジロ カワラヒワ カケス ハシボソガラス(25種) 遠くが見渡せる展望台に立つと次から次へと猛禽が舞い上がってくる。オオタカ、クマタカ、ノスリ、こんなにたくさんの猛禽を見下ろせる場所は県内に他にあるだろうか。ついでにハリオアマツバメも現れた。小鳥では、キビタキが通り道に現れてくれて、参加者全員でゆっくり楽しめた。この日、平野部は雨だったそうだ。やはり、早起きして出かけるということがある。

(諏訪隆久)

7月7日(日) 上尾市 八枝神社

人 16人 天気 曇 鳥 キジバト アオバズク ツバメ イワツバメ ハクセキレイ

ヒヨドリ オオヨシキリ カワラヒワ スズメ ムクドリ オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス(13種) 番外でタヌキ! 七夕と神社祭と一緒にあった探鳥会。祭り囃子を聞きながら鳥を見るのもいいもんです…! 今年は参加者が多く、期待に応じて2羽(雌雄)のアオバズクが見られました。夕暮の木の茂みをぬって翔び始めたのは、解散して間もなく。ガを捕えて巣穴に運ぶ様子に感激しました。「巣を作る穴のある大木もなくなっては、とても住めない。いつまでも、坊主頭のかわいいアオバズクのために、残してあげたいですね。」

(乗田実)

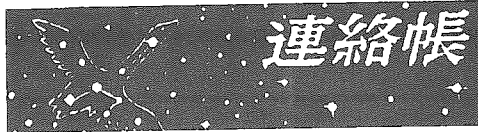
7月13日(土) 坂戸市 高麗川

人 9人 天気 雨後曇 鳥 カイツブリ ゴイサギ コサギ カルガモ コジュケイ バン イソシギ キジバト ヤマセミ カワセミ コゲラ ヒバリ ツバメ イワツバメ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ ホオジロ カワラヒワ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス(25種) 雨の中、熱心な会員9人が集まり、探鳥会の開始。例年見られる、バン、カルガモ、カイツブリ等の親子連れが全く見られず、リーダーはやきもき。今日は何も見られず終りかなと思っていたとき、神風が吹き、突然ヤマセミが現れ、全員が見ることができた。その後は、カワセミ、イソシギ、キセキレイなどが出現し、リーダーもほっと一息。雨の中を参加してくれた会員の方々も何とか満足してくれた様子でした。(中島康夫)

7月14日(日) 熊谷市 大麻生

雨天のため中止。





鳥獣保護区新設など要望

平成4年度から8年度までの5年間を対象とする第7次鳥獣保護事業計画が、現在県当局で策定されています。当支部は野鳥の生息環境保護のため、次のことについての要望書を提出しました。

- ①現在、阪東大橋から下流約3kmくらいまでだけが銃猟禁止区域ですが、その地域を新たに鳥獣保護区にして、更に上流・烏川合流点までと、下流・上武大橋までを銃猟禁止区域にすること。
- ②大麻生の明戸堰上流は銃猟のできる地域になっていますが、その地域まで銃猟禁止区域を拡大すること。
- ③人間川の雁見橋までの銃猟禁止区域を、落合橋まで拡大すること。
- ④寄居町鐘撞堂山周辺を、新たに銃猟禁止区域にすること。

理事懇談会では

日本野鳥の会の理念は先日明文化されましたが、更にその理念の意味するところや、その理念に基き我々が推進していく自然保護活動とはどういうものかを明文化した、いわば日本野鳥の会の憲法とも言うべき文書の作成が、現在進められています。

8月3～4日に都内渋谷区で開催された理事懇談会で常務会が作成した原案が示され、9月中には各理事が文書で意見をまとめて提出し、来年2月の評議員会にむけて、理事会案作成の作業が続きます。

狭くてどうにもならない本部事務局移転の計画も進められています。事務局移転だけではなく、各界のご協力を得て、広い視野で国際自然保護センターを建設していこうという計画です。

9月の土曜日当番(2時～6時)

- 7日 町田好一郎 藤野富代
14日 山部直喜 海老原美夫(編集会議)
21日 榎本秀和 小林芳江
28日 袋づめの会(1時から)

ご寄付

鈴木忠雄50,000円、積水ハウス(株)川越営業所30,000円、総会2次会参加者12,117円、館野鉄夫10,000円、田村62円切手60枚、戸隠探鳥会参加者6,180円、原田郁子2,500円、林滋10,000円、ありがとうございました。(50音順、敬称略)

会員数は

8月1日現在 1,728人です

活動報告

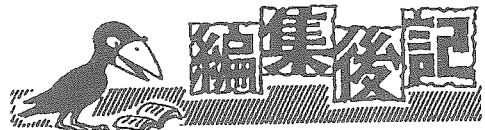
7月21日 役員会議(司会:田口浩司、各部の報告・第7次鳥獣保護事業計画に対する要望事項・リーダー研修会・その他)。

8月3日 普及部会議。

8月3～4日 理事懇談会出席(海老原)。

8月10日 本部普及部築田氏来局。リーダー研修会打ち合わせ(中島ほか)。

8月12日 三菱信託銀行大宮支店古屋氏来局。ロビー展相談。



新役員の各部への所属を決めるとき、すっかり編集部でOKしてしまい、あとからあわてている駆けだし編集員として参画することになりました。初仕事は、皆さんからの編集原稿のチェック。久しぶりに字面追いをし、自分の判断に迷いが出ることしきり、50の手習いとなりました。

増え続ける会員に親しまれる支部報となるよう努力します。皆様にご協力を乞うことも初仕事というわけです。(内藤義雄)

『しらこぼと』1991年9月号(第88号) 定価 100円(会員の購読料は会費に含まれます)
発行人 鈴木忠雄 編集発行 日本野鳥の会埼玉県支部 TEL・FAX 048(832)4062
〒336 浦和市岸町4丁目26番8号プリムローズ岸町 107号 郵便振替東京9-121130
印刷 望月印刷株式会社 (本誌掲載記事の無断転載はかたくお断わりします)